



第1096号

令和4年10月15日発行

URL <https://shinkyo.or.jp>
shinkyo@shinkyo.or.jp



公益社団法人 信濃教育会
長野市旭町 1098
☎ 026 (232) 2470
編集兼発行人／武田 育夫



トマト収穫作業

毎年夏休みに、全校生徒が近隣のトマト畑で加工用トマトを収穫し、堀金にあるゴールドバックさんに買い取っていただきます。その収益金は生徒会活動を支える大切な資金となっています。(堀金中学校)

臨時総会②報告… 2～3

日本連合教育会研究大会東京大会報告… 4～5

信州“教育の日”青木大会 You Tube Live のご案内… 6

教育研究団体との懇談会… 7

教育研究団体補助金の決定… 7

令和5年度全県研究大会授業者・研究校の募集… 8

SNS はじめました… 8

学事関係職員録正誤表… 8

信教会長と語ろう… 9

リレー通信 わたし自慢³⁸ アルトサクセスはじめてみました 中村雅史 (長野市立南部小学校)… 9

100年館の絵 小長谷結夏 (辰野中学校)… 10

会員ひろば 新家加世子 (中野市立日野小学校)… 10

11月の研修ガイド

1日(火) ●令和4年度佐久教育会集い事業 ◎佐久教育会館 大会議室 ◇「ムーブメントの教育の理解と実際」大塚美奈子(上田女子短期大学) ☆佐久教育会 0267-67-2043

19日(土) ●諏訪の子どもや教育を語る会 ◎諏訪教育会館 ◇「アフターコロナを見据えた学校・家庭・地域の連携」☆諏訪教育会 0266-52-0213

25日(金) ●松本市教育会教育講演会 ◎里山辺体育館(松本市教育文化センター東) ◇「『私の半生』～書を通して育ててきたもの～」大澤一仁(松本蟻ヶ崎高等学校教諭), 蟻ヶ崎高等学校書道部による書道パフォーマンス ☆松本市教育会 0263-32-4751

●名称 ◎会場 ◇演題・講師等(講師名敬称略) ☆連絡先

「先生方が明るく元気が出るような 授業研究や研修にしていこう」

～構想するときは楽観的に、計画するときはマイナス要因も
含めて悲観的に、実行するときは楽観的に楽しんで～

令和4年度第2回臨時総会が9月6日（火）に、全代議員50名のうち47名出席のもと、オンラインで開催された。第1号議案が上程・承認され、その後7つの協議題について意見交換された。以下臨時総会の概略を報告する。

【武田会長あいさつ】

- ・各学校では授業研究や校内研修を楽しく行っているだろうか。先日行われた「第7回信州大学教育学部養成連絡協議会」の中で、県中学校長会長の北村康彦校長が、教材研究や授業研究は本来楽しいものだ、と言っていたが私も同感である。
- ・長野県の教育について広岡亮蔵は「分析論理が非常に強く細かい字がぎっしり詰まった、分厚い研究発表のプリントが多い」と言い、また上田薫は「研究物は厚いよりも薄い方が優れているという類いの感覚が微塵もない」と信州の教師たちの授業研究への向かい方に警告を鳴らした。
- ・確かに、信州の教師は授業研究や教材研究を難しくし過ぎたのかもしれない、というより難しく言った方が研究をしているのだ、と思ってきたのではないか。それは本当に子どもを中心とした発想であったのだろうか。「研究が楽しくない」「研究授業は気が重い」としてきた要因の一つはこんな所にあるのかもしれない。学校力は教師力であり、授業力である。チームとしての職員集団が楽しく、明るく向かっている学校は笑いが絶えないし、先生も子どもも元気であるのではないか。北村校長の言うように、本来楽しいものは楽しくしなくてはいけないと思う。
- ・信濃教育会の研修も「先生達が元気が出るような研修」であったかどうか反省をして現在議論を進めている。先生達が明るく元気で子ども達に向き合うことができるような研修はどんな研修かを現在考えているところである。
- ・先日無くなった、京セラ創業者の稲盛和夫さんは

「楽観的に構想し、悲観的に計画し、楽観的に実行することが物事を成就させ、思いを現実に変えるのに必要なのです」と言った。各学校も、信濃教育会も、来年度に向け構想する時期を迎えるが、楽観的に楽しんで構想する事が大事なのだと思う。しかし、具体的な計画はマイナス要因も含めて計画し、実行する時は楽しんで実行していきたいと思う。

- ・本日はよろしくお願いいたします。

【正副議長の選出】

議 長 長野上水内教育会 海沼 敦 代議員
副議長 大学教育会 西 一夫 代議員

【議 事】

第1号議案「保有債券償還に伴う新規債券購入の承認」に関する件

【協 議】

- (1) 令和4年度全県研究大会の推進
- (2) 第137回信濃教育会総集会更埴大会について
- (3) 信濃教育会総集会の今後の開催見通しについて
- (4) 令和4年度会員アンケートの推進計画
- (5) 令和4年度図書教材研究協議会アンケートについて
- (6) 教育研究団体補助金の決定について
- (7) 再任用者の加入促進について

【報告・連絡】

- (1) 教育研究所研究発表会報告
- (2) 教育研究所募集要項

- (3) 第19回信州“教育の日”青木大会 You Tube Live
- (4) 雑誌「信濃教育」購読状況について
- (5) 短期視察研修補助事業・自主的校内研修補助事業
- (6) 第73回日本連合教育会東京大会参加報告
- (7) 第45回長野県同和教育研究大会参加について
- (8) 郡市教育会展開催について

【意見交換】

テーマ 「信濃教育会を発展させるために」

7つのブレイクアウトルームに分かれて協議。その後各グループより発表。

○先生方のニーズに応える研修

- ・教員採用試験に焦点をあてた教師塾Bのような研修の機会の充実をさらに図っていただきたい。
- ・産育休の間に学校の情勢、教育情勢が変化している。復帰の際にこういう変化を知った上で復帰された方が良いのでオンラインで情報が知れるような講座を開いてみてはどうか。
- ・産育休の先生たちはオンラインを活用し、不安を解消できるような語り合う場が必要。復帰した経験のある先生がそこに加わることで、参考になる意見がもらえるのではないかな。
- ・年代や対象者のニーズを探りターゲットを絞りながら分けていくことがよいのではないかな。グーグルフォームアンケートを分析して対象者を絞ることもできるのではないかな。
- ・悩みや不安を抱えた先生の相談事業のようなことはどうか。
- ・会員一人一人を大事にする、会員に優しい信濃教育会を今後目指していきたい。

○先生方をつなげる教育会

- ・自主的で主体的な研修にどうやって寄り添っていくか。共に学び合いたい仲間との出会い、そして一回だけでなく継続して出会い続けネットワークを広げる場が重要なのではないかな。
- ・それぞれの研修講座で集まったメンバー同士でのコミュニケーション、人のつながりを大事にした研修はどうか。
- ・ネットワークを活用し、会員一人一人に向き合い大事にし寄り添っていくことが教育会の発展につながるのではないかな。

- ・郡市教育会と連携や協力をして事業を作っていくこともよいのではないかな。
- ・孤立させない、一人にならない、仲間を作るような教員組織の形成が重要。

○先生方への働きかけや広報の仕方について

- ・呼びかけは今までの方向も大事だが、直接的なものも必要になってくるかもしれない。様々なコンテンツを利用していくことが大事なのではないかな。
- ・繋がりが薄いところは、大胆に直接的な誘いかけをしてみてもどうか。産育休の方には自宅でするZoomが有効的で参加しやすいのでこれからも使ってほしい。
- ・参加しようか迷っている人もいるため、個別に直接働きかけるといことが特に重要なのではないかな。

【閉会のあいさつ】

- ・再任用者の方々の現状は、60歳で退職される方に信濃教育会として感謝状を渡している。しかし4月1日になると再任用者としてまた入会していただきたいというのが現在の仕組みである。重要なのは、再任用の方に多く入会していただき数を増やしたいということではなく、再任用の方も一緒に入っていただいて、一緒になってやっていこうということである。再任用の方のモチベーションが上がること、また、自分の行ってきた経験が意味のあることだと思えるようなことをしていくのが大事だという意見をいただいた。
- ・ただ伝え方が大変重要であり先生方の机上は、目を離すと紙でいっぱいになっているという状況の中で、いくらチラシを工夫して作成しても、なかなか読んでくれないのではないだろうか。もっと直接会員に情報を提供できる方法はないのかという点で、メルマガやSNSの活用案が出ていたが、信濃教育会ではFacebookやInstagramを開始した。
- ・様々なことに信濃教育会として挑戦していき、会員の方に多くの情報を発信したいと考えている。

第73回日本連合教育会研究大会 東京大会 報告



「Society5.0（超スマート社会）を心豊かで主体的に生き抜く日本人の育成」という大会主題のもと、第73回日本連合教育会研究大会東京大会が、令和4年8月18日（木）～19日（金）に新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンラインで開催され、信濃教育会からは40名が参加しました。

東京大会について ～参加者の感想から～

(1) 講演会

演題 「ウェルビーイングを実現する教育の在り方」

講師 鈴木 寛 氏（東京大学教授、慶應義塾大学教授、元文部科学副大臣、前文部科学大臣補佐官）

○「ウェルビーイング」について詳しく話を聞いたのは初めてでした。これから生きていく子どもたちのために今の教育はどうあるべきか様々なお話を聞いてきましたが、その原点にあるのがウェルビーイングだと感じました。これからは想定外のことが起こる時代と捉え、他者と協働しつつ自ら考え抜く自立した学びをいかに実践していくか考えていきます。

○鈴木寛氏から「子どもたちが幸福で充実した人生をおくるためには、いかに自ら考え・探究し・乗り越えていくかが大切である。そのためには、心理的安全につながる安心して自分を出せる環境や、夢中力を育み満足感につなげていくことがカギとなり、特に高校生までの教育のあり方が重要である」というお話をお聞きし、改めてウェルビーイングの視点での教育や教師の子どもへのかかわりを見つめ直すきっかけとなりました。

○講演会の中で、これからは変動性、不確実性、複雑性、曖昧性の時代であり、多様な変化や答えのない課題に取り組み、対応できる人材を育てる必要があるというお話が印象的でした。

次に日本の義務教育は“黄金の15歳”と呼ばれる程高い水準の学力を生徒たちが身につけているというお話もあり、その一部分を自分も担えていることを大変うれしく、教師という仕事を誇りに思いました。

(2) 分科会

○9年間に渡り系統立てて学ぶカリキュラムや、地区ごとに避難所運営について考え合う中学生の活動を知ることができました。つながり合って地域と共に学び、困った時に助け合える力を育む教育は、これから求められる幸福感につながる学びであると思います。また、「思考のすべ」を学校全体で教師と子どもが共有し、論理的思考力を身につけながら、学び方を育てていくことが学力向上につながることを示していただき、大変参考になりました。

○1人1台端末等の使い方、実践方法について知見を広げることができました。「プログラミング教育」と言われると、正しいプログラムを考えること、作ること、実行することに重きを置きがちですが、身の回りの課題に対しての解決策としてプログラムを作ることが大切だと感じました。ご指導の中で「Society 5.0に対応するのではなく Society 5.0を創る国民の育成が大切である」とのお話から、情報を活用するだけでなく、新たに創っていく創造力の必要性も感じました。

○自己肯定感を高める活動がその子どもの安心感になり、自立して生きていくことができる原動力になるのだと感じました。子どもたち一人一人の特性を見極めて支援計画を立ててチームを作って実践していくときに、他者と比較する結果ではなく、自分と向き合う成長の過程を大切にすること、体験的な活動を取り入れ、その過程を視覚化することを意識していきたいと思いました。

(3) 感想等

○青年教師の会のグループ協議の実践報告で、豆苗の栽培方法を考える中で、主体的で対話的な深い学びにつなげるため、ワークシートを工夫するという実践が非常に興味深かったです。またタブレットの活用法や中学校へ繋がっていく小学校の学びを、全国の先生から学ぶことが出来ました。

○県外の方と接する研修はほとんどないので、このような機会をいただくことができ、とてもありがたかったです。全体的な感想として「県が違って課題となっていることは似ているんだな」と思い、他県の方にも親しみが湧きました。一方で、コミュニティースクールのあり方や英語力など、県によってかなり差があることも分かり、他県から学ぶことも重要だと感じました。視野を広げることができた研修でした。

信濃教育会の提案について

信濃教育会からは、下記のように提案発表をしていただきました。

第2分科会 学習指導(1)：提案者 南牧村立南牧中学校 教諭 中村 俊介 先生	
研究協議題	「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善
提案レポートの主題	生徒自身が、意思決定していく過程を自覚することのできる教材の組織と指導
研究のねらい	数学の学習を通して、不確定な事象に対する考察をデータに基づいて行い、生徒自身が様々な事象に対する意思決定をすることができるようになる。また、意思決定していくために必要な過程や手順を自覚することができるようになる。

【参加者の感想】

○中村先生の発表では、生徒自身が意思決定でき、その自覚ができる教材を通しての学習について、中学校での実践を聞くことが出来ました。教材化する問題をどのように選んでいくのか、子どもたちのどのような反応を予想していくのかは勉強になりました。子どもたちが説明的・予測的・指示的分析などのデータから、考えた根拠にもとづいて意思決定できるような教材づくりをしていきたいと思いました。

◎ 第74回日本連合教育会研究大会 山口大会のお知らせ ◎

大会主題 時代の変化を前向きに捉え 志高く人間性豊かに未来を創造する日本人の育成

- | | |
|--------|---|
| 1 期 日 | 令和5年8月17日(木)～18日(金) |
| 2 会 場 | 理事会：セントコア山口 青年教師の会：防長苑
全体会：山口市民会館 分科会：山口市民会館 山口県教育会館
山口県社会福祉会館
中市コミュニティホール |
| 3 記念講演 | 講師：東京2020パラリンピック女子マラソン金メダリスト
道下 美里 様 |

ともに学び ともに育つ 環境づくりをめざして 第19回 信州“教育の日”

青木大会 YouTube Live

YouTubeライブでお届けします

村の子どもは村で育てる～あおきっ子活動～



信頼・使命

私たち一人一人が、
それぞれの使命を自覚して、
自分たちの教育環境を
よりよいものに
整えるべく努めたい

3つのねがい

参画・共生

学校・家庭・地域社会が、
それぞれに役割を
果たしながら、
ともに生涯学習の
振興・充実に努めたい

教育尊重

自らの自己充実に
図りながら、
心豊かに生き抜く
子どもが育つ教育風土の
醸成に努めたい

日時：令和4年11月19日(土) 12:50～15:15

主催：信州“教育の日”実行委員会 共催：青木村 青木村教育委員会 後援：長野県議会、長野県教育委員会他 約125団体

学びの発表 1

「青木村の教育
～村の子どもは村で育てる～」



【大会日程】

12:50 オープニング
大会プログラム
青木村の風景

第1部

13:00 開会行事

- 実行委員会会長あいさつ
- 絵手紙・三行詩表彰式
- 来賓あいさつ

13:20 学びの発表 1

13:35 学びの発表 2

休憩

13:50 学校紹介

- 上田養護学校紹介
- 丸子修学館高等学校総合学科紹介
- 絵手紙・三行詩受賞作品紹介
- 青木村観光紹介

14:35 座談会

15:10 閉会行事

- 閉会のあいさつ

学びの発表 2

「ふるさとの思いを受け継ぐ!!
義民太鼓への取り組み」



座談会

結ぼう 人の輪・地域の輪
～通学合宿がくれた宝もの～

【出演者】

- <通学合宿推進者 元信州大学教育学部教授>
- 土井 進さん
- <青木村教育委員会教育長>
- 沓掛 英明さん
- <通学合宿支援体験者>
- 小岩井 啓さん ● 真先 陸さん (県内小学校教諭)
- <通学合宿参加者>
- 渡邊 紗綾さん ● 花城 空さん (青木中学校生徒)
- <保護者>
- 鴻巣 博子さん

学校紹介

上田養護学校の皆さん
丸子修学館高等学校総合学科の皆さん

絵手紙・三行詩優秀作品紹介

- 絵手紙
幼稚園・保育園の部「特選」「入選」受賞作品
高校・大学・一般の部「特選」「入選」受賞作品
- 三行詩
「最優秀賞」「優秀賞」受賞作品

視聴方法

- 1 右のURLまたはQRコードからアクセスしてください。
 - 2 画面内のYouTube (ユーチューブ) の動画をご覧ください。
- ★ スマートフォン・パソコン・タブレット等でご覧になれます。
 - ★ 動画配信開始後は、いつでもご覧いただけます。

お願い

- ご覧になった感想や励ましのメッセージをお寄せください。
- ★ 公益社団法人信濃教育会ホームページ内の「信州“教育の日”青木大会 YouTubeLive」に、Googleフォームを利用したアンケートを掲載します。ご利用ください。

URL:

<https://shinkyo.or.jp/event/kyoikunohi>



信州“教育の日”実行委員会

【事務局】〒380-0846 長野市旭町1098 信濃教育会館内
TEL 026-232-2470 FAX 026-232-1892

信濃教育会 信濃教育会賛助委員会 長野県教職員組合 長野県教職員互助組合 長野県校長教頭組合 長野県高等学校教職員組合
長野県高等学校長会 長野県高等学校PTA連合会 長野県公民館運営協議会 長野県国公立幼稚園・こども園長会 長野県子ども育成連合会
長野県社会福祉協議会 長野県小学校長会 長野県私立中学校高等学校協会 長野県退職校長会 長野県退職公務員連盟 長野県中学校長会 長野県
特別支援学校校長会 長野県PTA連合会 日本教育公務員弘済会長野支部

9/7（水） 教育研究団体と信濃教育会との懇談会を行いました

武田会長は挨拶のなかで「昭和35年から教育研究団体教育研究補助事業として、自主的に研修する団体に国と県が二分のずつ補助をしていたが昭和55年に打ち切りとなった。長野県はその後、信濃教育会が同好会等への補助金を続けてきた経緯がある。先生方が自主的に研究会をつくり教育をしてきたのが長野県の文化であり特徴である」と語り「各教育研究団体がさらに発展していけるよう信濃教育会はサポートしていきたい」と結んだ。



懇談会では教育研究団体の代表者が一堂に会し、同好会員の推移とコロナ禍での運営、高校や大学との連携、事務局の現状等、それぞれの取組や工夫、課題について意見交換した。コロナ禍故の苦勞や事務局としての悩みが語られたが、そうした逆境にありながら会員増への取組やオンライン研修の工夫、人から人へ確かにつないでいく同好会ならではのよさも多く報告された。同好会はそれぞれの先生方が実践を交流し合い、同好会を通して互いを知り、同好会で育てられたと語る先生方が多く、同好会や各種研究団体は長野県の教育を支えてきたといっても過言ではない。多くの先生方が同好会に集い仲間の輪を広げながら研鑽を深められることを願う。

令和4年度 教育研究団体補助金

多くの同好の士と「共に学び合う」教育研究団体に補助・支援をいたしました。

No.	補助金申請教育研究団体名	責任者名	本年度補助金
1	信州社会科教育研究会	野口 茂雄	120,000円
2	長野県学校体育研究会	森泉 雄二	115,000円
3	信州理科教育研究会	土屋 次男	115,000円
4	長野県算数数学教育研究会	茅野 公穂	105,000円
5	長野県音楽教育学会	石川 武	70,000円
6	長野県技術・家庭科教育研究会	市川 元彦	60,000円
7	長野県国語教育学会	西原 秀明	55,000円
8	長野県学校保健会養護教諭部会	大塚 圭子	55,000円
9	長野県美術教育研究会	村松 哲史	55,000円
10	長野県道德教育学会	山浦 貞一	35,000円
11	長野県英語教育研究会	臼井 伸明	35,000円
12	生活に根ざす信州総合・生活科教育研究会	植松航一朗	40,000円
13	長野県書写書道教育研究会	小池 勲	25,000円
14	長野県家庭科教育研究会	中村真由美	20,000円
15	長野県国際教育研究協議会	北野 文彦	35,000円
16	信州大学教育学部附属幼・小・中・特支6校園学習指導研究会	畑 邦弘	200,000円
17	長野県図書館協会小中学校図書館部会	川本 修一	50,000円
18	長野県視覚・放送・情報教育研究会	高野 直樹	40,000円
19	長野県統計教育研究協議会	宮澤 剛彦	30,000円
20	長野県特別支援教育研究連盟	小尾 昭人	25,000円
21	長野県学校保健会 小・中・特別支援学校保健主事部会	三ッ石誠司	20,000円
22	長野県へき地教育振興協議会	神田 博幸	20,000円
合 計			1,325,000円

令和5年度授業者・研究校の募集を開始しました。

個人で！学校で！

共同研究者とともに、今、行われている授業研究を、さらに深めていきませんか？

応募方法は各校へ配布済の下記チラシ、または信濃教育会ホームページをご覧ください。



令和4年度全県研究大会
の参加申し込みは

11月1日

まで！



信濃教育会HP



SNS はじめました！

「信濃教育会会長」の Facebook



より多くの方に、信濃教育会について知ってもらいたい、身近に感じて
もらいたいという思いから、武田会長が直接 Facebook での情報発信をは
じめました。信教会長と Facebook でつながりませんか。友達リクエスト
をお待ちしております。



「信濃教育会」の公式Instagram



信濃教育会からの情報を発信していきます。ぜひ「フォロー」をお願い
します。



信濃教育会からの情報のメール配信

信濃教育会の研修会や講座の案内や情報を直接知りたい、というお声が寄せられて
おりました。メール配信ご希望の方は右記 QR コードよりグーグルフォームに入力
の上、送信ください。



令和4年度 「長野県学事関係職員録」正誤表

記載内容について訂正のご依頼がありましたので、お知らせします。 (雑誌図書編集部)

頁	学校名	誤	正
257	飯山高等学校	(記載なし)	論 英 竹村 絵里

信教会長と語ろう ～若手教職員の視点で信濃教育会を考える～

10月6日（木）に全県下から若手教職員が集まり、武田会長と語る会がもたれました。プロフィールに「最近腹が立ったこと」を書き、それを手にした参加者が2分間の中で相互に自己紹介し、5回相手をかえるとほぼ全員と言葉をかわすことができました。会長の軽快な口調の講話「信州教育の歴史と信濃教育会」に聞き入った後は、若者からの率直な質疑が交わされ、いつの間に当初の緊張はかなりほぐれてきました。

午後はグループごとに「信濃教育会の新たな方向性を示す研修を企画する」の難課題に、フレッシュな頭脳をフル回転。次々と出されるアイデアと弾む声。企画案はJambordにまとめられ、全体会での発表＆質疑でさらに練り上げられました。来年度は、若手教職員のアイデアによる新たな楽しい研修が立ち上がりそうです。

みなさん、どうぞお楽しみに！



リレー
通信

わたし自慢 ③⑧

アルトサックスはじめてみました

長野市立南部小学校 中村 雅史



小学生から金管バンドに入り、中学・高校・大学まで吹奏楽部やオーケストラでホルンを吹いていました。教師になってからは、どこかの団体に所属して演奏する機会はありませんでしたが、金管部がある学校では指導をしたり学校行事などで楽器を吹いたりと細々と音楽をしていました。

昨年、サキソフォンの演奏会を聴きに行き、「アルトサックスが吹けるようになってみたい」と思っていました。しかも、その演奏会で配られていた「スペシャルバンド募集 経験不問」というチラシの文字に、「この演奏会に出てみたい」と思っていました。私が吹いてきたホルンとは全く違う楽器です。見よう見まねでリードをつけて吹いてみましたが、すっとなきょうな音しか鳴りません。必死に吹いていると口角（口の周りの筋肉）が疲れて締まらなくなり、口の横からぷすぷすと息が漏れてしまいます。両手のすべての指を使うのも、金管楽器とは違います。特に小指を使う音は指が

りそうになります。

でも、朝の子どもたちが登校する前の時間や休日に教室で練習をしたり、家で家族に疎まれながら練習したりしているうちに、少しずつ吹けるようになってきました。週3～4回の練習を4か月程続けました。3月に予定されていたスペシャルバンドの演奏会は、残念ながらコロナで中止になってしまいました。でも卒業式後の学級指導で、いきもののがかりの「ありがとう」を演奏して、卒業生を送ることができました。

この数か月間練習することで、アルトサックスが吹けるようになってきました。このことは、これから先も楽しく音楽と付き合っていける人生の幅が広がったように感じています。





我が教育会の取組

No.3

高遠中学校では毎年六月に全校行事で写生会を行っています。例年近所の寺院などで制作させていただいていましたが、令和三年度はコロナの影響により、全校生徒が中学校敷地内で制作することになりました。授業の中で水彩画の技法などを学んだあと、敷地内を散歩しながら構図を決めていきました。写生会当日のみではほとんどの生徒が完成せず、その後もじっくり時

間をかけて描き進めました。文さんは登校中、校庭の端に机がひとつ置かれているのを偶然発見しました。一体誰が運んできたのか、いつからここに置いているのか。木陰にぼつんと置かれた古い机は、彼女に様々なストーリーを想像させました。手前側が木陰の中であることを表現するために置く色を工夫しながら、フェンスや石壁などの細部まで丁寧に取り組んだ作品です。

指導者
小長谷結夏（辰野中学校）

100年館の絵

令和3年度 永年保存作品
今を生きる子どもの絵



「私の居場所」

青木 文（高遠中2年）

信濃教育博物館所蔵

会 員 ひ ろ ば

進め！ぼく・わたしたちの ふねふね 作戦！！

私たちの学校の裏には竹山があり、4年生12名は、竹で船（筏）を作りプールで遊んでみたいという願いをもちました。そこで、「進め！ぼく・わたしたちのふねふね作戦」を開始。山から竹を切り出し、3チームに分かれて話し合いを重ねました。「竹は重いかから半分に割って使いたい」「竹と一緒にペットボトルもつなげて、バナボートのような形にしたい」など、どのような船にするか、どのような船になったら嬉しいか、楽しく遊ぶ様子をイメージしながら取り組みました。竹を組むところは、コミュニティスクールの方にサポートしていただき、ついに完成！！はりきってプールへ行き、乗船。思い描いたように格好よく乗れたかということ……。喜びもあり、ちょっぴり悔しさも残る「ふねふね作戦」となりました。



様々な体験が、子どもたちの「今度は〇〇したい！」という喜びや学びにつながると実感しています。これからも、子どもたちと共に様々な活動にチャレンジしていきたいです。（中野市立日野小学校 新家加世子）

教職員川柳

雑草の しぶとさ羨む 吾の髪
もう終わり？ 名残惜し過ぎ 夏休み
値上がるも 上がらぬものは 授業力（しょうじん せ代）
（きききじん）
（青クリリン）

ご応募お待ちしております。

投稿はメールでお願いいたします。kaihou@shinkyō.or.jp

「信濃教育会報」カラー版は信濃教育会ホームページの「会員のページ」でご覧いただけます。

